



尼港三月事變之顛末(第一案)

(陸海軍兩省新聞公表案)

大正九年六月二十八日

陸海軍兩省



0250

尼港三月事變之顛末

本事變前後ノ状況ハ當時日本側ノ通信杜絶シ
アリタルノミナラス尼港占領後ノ今日ニ於テモ
一名ノ生存者ナキヲ以テ其ノ真相明ナラサル点
アルモ今日迄ニ得タル諸情報ヲ綜合スレハ其
經過概ネ左ノ如シ

一月下旬以來逐次尼港ニ近迫セル過激派軍ハ二月五日ヨリ
我海軍無線電信所及同地附近ノ陸軍守備隊一部
ニ向ヒ砲撃ヲ始メタルヲ以テ防戦大ニ努メタルモ六
日電信室ノ一部ハ遂ニ砲彈ノ爲メ破壊セラレ通信不
能ニ陥リレニ依リ海軍無線電信隊及陸軍守備隊ノ一
部ハ七日同地ヲ撤シテ尼港守備隊主力ニ合シ海軍無線
電信隊ハ爾來領事館ノ直接保護ヲナスコトトナリ相

共ニ協力シテ尼港ノ守備ニ任ス

二月二十四日午前九時過激派軍指揮官ヨリ通牒ヲ受
領ス其ノ要旨ニ曰ク「今後徒ラニ犠牲ヲ拂ハンゴトヲ望
ムル爲メ協商ヲ開始シタカシム希望ナリ依テ二月二十四日
午後六時迄ニ日本軍ノ使者ヲ過激派軍本部ニ差遣
セラレタシ」ト守備隊長ハ右提議ニ應シ委員ヲ過激
派軍ニ差遣シ相互協定ノ結果二月二十八日午後五時ヲ
以テ軍事行動ヲ停止ス

該協定事項ハ未タ其ノ正文ヲ發見セサルモ多數難
民ヲ調査シ得タル所ニ依レハ其ノ要旨概ネ左ノ如シ

一、日本軍、赤衛軍ヨリ各歩哨ヲ配置シ警戒ニ任レ尼港

ノ安寧秩序ヲ圖ルコト

二、赤衛軍ハ裁判ナシレテ一般市民ニ對シ銃殺ヲ行ハサルコト

三、一般市民及白衛軍ヲ捕縛シ又ハ猥リニ掠奪ヲ行ハサ

レコト

二月二十九日過激派軍入市スルヤ右協定條件ヲ無視シ露國
尾港守備隊將校及官吏富豪等五百餘人ヲ捕ハテ獄ニ
投シ所在掠奪ヲ行ヒ日ヲ經ルニ從ヒ其ノ兇暴益々甚シク
投獄虐殺相踵キ支、鮮人無賴ノ徒ヲ集メテ部隊ヲ編
成シ以テ其ノ勢力ヲ張り市街ヲ横行スルニ至レリ

守備隊ハ依然從來ノ如ク所要ノ衛兵及巡察等ヲ出シ警
戒シアリシモ赤衛軍ノ横暴黙シ難ク良民ノ歎願亦益々
ナリレカハ石川少佐ハ石田領事ト協議ノ結果三月七日(或
ハ八月)自ラ過激派軍本部ニ至リ有領「トリヤピーツイン」
ニ對シ其ノ暴戾ナル行動ヲ中止スヘキ旨勸告ヲ送ヘタリ
然ルニ三月十一日午後過激派軍幕僚「ウーモ」ハ守備隊本部

過激派軍ノ横暴ナル行動ハ唐ニ人道ニ黙視シ得サルヲ以テ
ナラス我守備隊及在留官民ノ自衛上之ヲ放置スルヲ得ス
況ニヤ武装解除ノ如キ國辱的要求ハ帝國軍人ノ断シ
テ甘受シ得ザル所ナリ我守備隊長石川少佐ハ最早戰
闘ノ避ク可ラサルヲ察シ石田領事ト協議ノ結果廿伍再
時刻ヲ遷延スルトキハ彼我兵力ノ關係上甚レキ危
險ニ陥ルハキヲ慮リ自衛上断然十二日午前二時ヲ
期シテ敵ヲ攻撃スルニ決シ即夜機ヲ各部隊及領事在
留民ニ傳ヘ諸般ノ部署ヲナス

守備隊ノ攻撃部署左ノ如シ

一、水上大尉ノ指揮スル第十二中隊（小隊缺）機関銃二、日本民會ニアリシ白衛團ヲ合シ過激派軍本部ヲ攻撃ス

二、後藤大尉ノ指揮スル第十一中隊（小隊缺）機関銃一、支那町方面ヨリ西方ニ向ヒ敵ヲ掃蕩シ一部ヲ以テ軍用交換所ヲ攻撃ス

三、石川少佐ハ自ラ六十名々機関銃一ヲ率キテ隊備隊トナリ水上隊ニ協力シテ敵本部附近ノ敵ヲ掃蕩ス

四、爾後三隊ハ合シテ黒竜江水上ヲ突破シテナリ
イラフ要塞ヲ攻略ス

五、海軍無線電信隊ハ一部ヲ以テ實業學校ノ敵砲ヲ奪取シ主力ヲ以テ教會堂附近ノ敵ヲ掃蕩ス

此は佐藤少将
より傳へたる
トスルに依り
小隊

シタル後尼港ヲナミラフ間ノ敵砲ヲ奪ヒ
ヌイラフ要塞ノ攻略ニ協カス

六、第十二中隊ノ一小隊ハ傷病者ハ兵營ノ守備

ニ任ス

十二日午前一時三十分諸隊ハ行動ヲ起シ水上隊又石
川隊ハ敵本部及其ノ西方約七十米ノ市民俱樂部
ノ敵ヲ包圍攻撃ス有領トリヤピーツイン負傷シ
ニ一ナ等ト共ニ僅ニ身ヲ以テ免レ我戰勢極メテ
有利ニ發展セシカグンスト高會ニ在リテ副統
領「ラバタ」ハ我攻撃ノ衝ニ中ラサリテ以テ直
ニ其ノ部下ヲ督勵シテ應戰ニカハルト共ニ電
話ヲ以テ各所ニ散在セル「バル」ニ來リ合
セシメヌ「バル」ニ第一聯隊長「アムール」(妻名

ナルカ如シモ部下兵力ヲ集結シテ我攻撃ヲ阻
止シ殊ニ其ノ一部ハ我側背ニ迫リ形勢逐次不
利トナル斯クシテ時ノ移ルニ從ヒ敵兵ハ市外
ヨリ續々増加シ來リ家屋内ヨリ猛烈ナル射撃
ヲ加ヘワ一逐次家ヨリ家ニ移リテ我ニ逼ルニ
及ヒ我兵奮戦屢々壯烈勇敢ナル突撃ヲ敢行
シタルモ周圍ノ家屋ハ盡ク敵ノ占領スル所
トナリ暴露セル我兵ハ忽チ死傷續出シ午前
二時三十分頃ニ至リ守備隊長石川少佐重傷
ヲ負ヒテ戦死シ横錢副官、石川軍医、窪田通
譯並通信員岩井ユ兵上等兵相次テ戦死シ爾
後戦況益々不利ニ陥リ天明ト共ニ愈々苦戦惡
闘ヲ續ケ將校以下其ノ大部ハ茲ニ壯烈ナル戦

死ヲ遂ケタリ高内主計ハ負傷ニ屈セス兵卒
僅ニ三名ヲ率テ日没ヲ待ツテ敵中ヲ突破シ午後
七時三十分大隊本部ニ歸還ス

0258

水上隊ハ石川隊ト共ニ力戦奮闘大ニ努メタルモ前述ノ
如ク家屋ニ據レル敵ノ猛射ニ依リ死傷頻發シ遂
ニ石川隊ト離隔セルノミナラス後藤隊トノ連絡ニ努
メタルモ敵ノ抵抗益々甚シク目的ヲ遂行スル能ハ
ス既ニシテ天明トナリ敵ノ勢力愈々加ハルニ及
シ我ハ已ニ三分ノ二ノ兵力ヲ失ヒ而モ友軍ノ情況
全ク不明ナリシヲ以テ一家屋ヲ利用シテ之ニ據リ
猛烈ナル敵ノ砲撃及小銃火ヲ浴ビツツ奮戦健闘
ヲ續ケテ日没ニ至リシカ此ノ時他方面ノ銃聲全ク
熄ミ吾ヲ包圍スル敵ノ銃聲竝爆音ヲ聞クノミ
是ニ於テ中隊長ハ兵營ニ歸リテ後圖ヲサント欲
シ十三日拂曉殘兵二十余名及機關銃一ヲ提シ市
街各所ノ家屋ヨリスル敵ノ妨害ヲ排除シツツ

前進中水上大尉以下十數名ノ戰死者ヲ出スニ至リ
河本中尉即チ殘兵十數名及機關銃一ヲ率キ敵
ヲ突破シテ兵營ニ歸還ス
後藤大尉ハ支那町方面ヨリ西方ニ向ヒ敵ヲ掃蕩
スヘキ任務ヲ以テ前進中主力方面ニ於テ盛ナル銃
聲ノ起ルヲ聞キレカ間モナク沿道家屋ヨリ俄然
我ニ向ヒ射撃ヲ開始セシヲ以テ直ニ之ニ應戰シ
茲ニ猛烈ナル市街戰シ惹起シ我兵血戰奮闘遂ニ
敵ヲ突破シテ奮進シ一部ヲ以テ軍用交換所ヲ
占領セリ然レトモ敵彈雨注シ加フルニ家屋内ヨリ
敵ノ投下スル手榴彈ノ為ノ塚本中尉以下死傷相
踵キ漸ク苦戰ノ状況トナル後藤大尉以下益々奮
戰以テ主力方面ニ策應スルニ努メタルモ敵ハ益々

之
三
大
胆
に
戦
ふ
る
心
を
示
す

其兵力ヲ増加シテ我ヲ包圍スルニ至リ天明ト共ニ形勢益々非ニシテ難戰苦闘其ノ極ニ達ス後藤大尉即チ部下ヲ激勵シ突撃ニ次クニ突撃シ以テシテ亂戦格闘遂ニ一條ノ血路ヲ開キ突進シテ市有棧橋北側附近ニ達セシモ後藤大尉以下將校特務曹長皆斃レ創ヲ裹ニテ戰フモノヲ併セ僅カニ三十名ニ足ラス而シテ敵ハ我猛勇ニ遇レテ敢テ尾撃セス然ルニ此ノ時黒龍江上ヨリ砲彈連リニ同隊附近ニ飛来シ忽チ十數名ヲ殺傷スルニ及ヒ我兵奮進勇取ナル突撃ヲ試ミタルモ奈何セン前後ヨリ敵ノ猛射ヲ受ケ遺憾ナカラ後藤隊ノ残兵ハ悉ク黒龍江上ニ壯烈ナル戰死ヲ遂ケタリ

海軍無線電信隊ハ一部ヲ以テ實業學校ニアリン

於公館

人々のいふ
ふいふ

敵砲ヲ襲撃シ砲二門ヲ奪ヒ其樞要部ヲ脱シテ
之ヲ持テ歸リ主力ハ教會堂附近ノ敵ヲ攻撃セ
シモ敵ノ抵抗頑強ナルノミナス敵兵漸次増加シテ
我ヲ包圍シ猛火ヲ注キ死傷續出し苦戰ノ情況
ニ陥リシヲ以テ退イテ領事館ヲ守備セシカ敵兵ハ
忽チ同館ヲ包圍シテ猛烈ニ攻撃シ來リ石川海
軍少佐以下勇戦奮激屢々敵ヲ撃退セシモ敵
兵愈々増加シ天明ト共ニ黒龍江上ヨリスル砲數
ト相俟テ我損害甚シク石川海軍少佐以下多數
ノ死傷者ヲ生シ形勢頗ル非ナリ石田領事ハ遂ニ
三宅海軍少佐ト共ニ領事館ニ火ヲ放テテ自刃シ
妻子亦火中ニ投セリ而シテ水兵二名ハ教會堂附
近ヨリ撤退ノ際其ノ主力ト相失シ兵營ニ入り陸軍

守備隊ニ合セリ

憲兵隊ハ其ノ宿舍ニ在リテ後藤中隊ノ来リ會スルヤ協力奮戦大ニ努メタルモ衆寡敵セス死傷相踵キ後兵營ニ向ハントスル途中悉ク戦死セルモノ如シ

守備隊本部ニ於テハ曩ニ兵卒三名ヲ奪キテ帰還セル高内主計指揮ノ下ニ防戦大ニ努メタルモ全ク敵ノ包圍スル所トナリ危険刻々迫スルニ至リテ以テ重要書類等ヲ悉ク焼却シテ十二日午後中隊兵舎ニ移リ中隊殘留者ト共ニ極力防戦ニ力ム

十三日午前四時三十分頃河本中尉ハ兵卒十數名及機関銃ヲ率テ又後藤隊ノ一部三十有餘名モ共ニ敵ノ重圍ヲ突破シ歸還セシメテ此ニ中隊兵舎ニ現存スルモノ合計一〇〇名(海軍兵卒菲戰闘要及傷病兵四七五留邦人三三名)ヲ算スル

ニ至レリ

中隊兵營ニ集マリシ残留員一同ハ相協力シテ防戦ニカシク
敵ハ兵舎ノ周圍ニ散兵壕ヲ構築シテ我ヲ包圍シ機関銃
及小銃ヲ以テ猛射スルノミナラス天明ト共ニ砲撃ヲ開始シ特ニ
支那町附近ニアリシ二十糎榴彈砲ヨリスル巨彈ノ為ソ兵舎破
壊セラレ危険刻々ニ迫レリ然レトモ残留員一同ハ殊死奮戦シ
テ毫モ屈スル色ナク十七日ニ至ル五日間晝夜間断ナキ猛烈
ナル敵ノ攻撃ニ對シ全員協力死守シテ敢テ撓マズ傷病兵
銃ヲ執テ起テ悲惨慘愴其極ニ達ス
然ルニ十七日午後五時過激派軍ヨリ使者ヲ派シテ哈府日露兩軍代表
者ノ電報ヲ示シ絶体ニ戰闘ヲ中止シ速ニ戰闘行為ヲ停止スヘ
キ旨勸告ヲ提議ス

残留者百有餘名ハ固ヨリ決死最後ノ奮戦ヲ試ミツツアリシモ今
ヤ旅團長ノ電報モアリ方々勸告ニ從フニ已ムナキニ至リ翌十八日早朝
萬斛ノ決ヲ吞ニテ戰闘停止ノ旨ヲ過激派軍ニ通告セリ之ト共ニ我

残存者一同ハ遺憾ナカラ彼等ノ為武装ヲ解除セラレ午前十時
民兵々舎ニ移リシカ十九日無法ニモ投獄セラルルノ悲運ニ會ス
之ヨリ先キ過激派軍ハ十一日夜半ノ戦闘ニ於テ當初ノ形勢
不利ナルヤ直ニ哈府革命軍ニ對シ哀訴スル所アリシカ戰況
有利ニ進展スルト共ニ忽チ其ノ態度ヲ變シ中隊兵舎ノ殘
存者カ哈府トノ通信不能ナルニ乘シ哈府ニ於ケル日露交
渉ニヨリテ得タル戦闘中止ニ関スル電報ヲ利用シ而モ之
ヲ巧ニ改作シテ殘留者ヲ欺懣シ遂ニ之ヲ捕ヘテ投獄
ノ屈辱ヲ與ヘタルノミナラス十二日日本軍ノ攻撃頓挫スル
ト共ニ忽チ其ノ本性ヲ發揮シ市内ニ在ル我居留民ヲ襲
ヒ老若男女ヲ問ハス悉ク虐殺シテ其ノ財貨ヲ奪ヒ忽ニシ
テ我數百ノ居留民ハ此ノ修羅場裡ニ無殘ノ憤死ヲ遂ケ辛
クシテ難ヲ免レ我守備隊兵舎ニ來リシモノ僅カニ十三名(男女六名)
ニ過キス其ノ兇惡殘忍實ニ言語ニ絶ス

本事變後過激派軍同市ノ全權ヲ掌握スルト共ニ益々其ノ野
獸性ヲ發揮シ支那人約九百鮮人約四百ノ「バルチザン」ヲ使
シテ在留邦人ノ潜伏シアルモノヲ索メテ之ヲ虐殺セシメ又
己ニ投獄シアリシ資産及有識階級ノ露人約四百六十余人
ヲ殺シ其ノ家屋財貨ヲ擧ゲテ悉ク之ヲ奪ヒ殘忍暴虐至
ラサルナク一面我在獄者ニ對シテハ頗ル粗惡ナル給養ヲナ
シ且種々勞役ヲ課スルト共ニ各種ノ事實ヲ捏造シテ普傳ヲ
行ヒ我殘留者ノ思想惑亂ヲ試ミタルモノノ如シ然ルニ我救
援隊ノ漸次近接スルヲ知ルヤ我在獄者及入院傷病者全部
ヲ五月二十五日ヨリ二十七日ノ間ニ於テ之ヲ慘殺セルモノ如ク
陸軍々人軍屬百八名海軍々人二名居留民十二名合計百二
十二名ノ同胞ハ我救援隊ノ來著近キニアルヲ知リツツ無殘
シモ悉ク「バルチザン」ノ毒及ニ斃レタリ

要之彼「バルチザン」ハ入市以來少クモニ千人ヲ虐殺シ暴戾
ノ極ヲ盡シタル後尼港全市ヲ焦土ト化シ我軍ノ上陸ニ先
チ逸早く「アムグン」上流方向ニ遁走セリ今ヤ尼港附
近ノ露國住民ハ漸ク其ノ虐政ノ苦ヲ脱シ救ヲ我軍ニ求
ムルモノ日ニ數百ヲ算スルノ狀況ニアルヲ以テ我派遣隊ノ
實地調査トシ等避難露民ノ齎ラス諸情報トニヨリ
尼港事件ノ真相ハ近ク更ニ一層明白ナラシメ得ヘキコ
トヲ期待ス

私

大正九年六月二十八日
陸軍省

尼港三月事變之顛末（第二案）

(陸海軍兩省新聞公表案)

支那の

大德二年正月五日
大德二年正月五日

尼港三月事變之顛末

本事變前後之狀況ハ當時日本側ノ通信杜絶シアリタルノミナラス關係者悉ク殉難シテ其ノ真相ヲ詳ニスルヲ得ス僅ニ我殉難者ノ日記、記録、居住民ノ言其他ニ依リ断片的ニ狀況ノ一端ヲ窺知シ得ルニ過ギス其ノ正鵠ヲ期シ難キモ不取敢前迷ノ資料ヲ基礎トシ經過ノ概要ヲ叙述スレハ左ノ如シ

大正七年西伯利派兵以來尼港ハ大ナル變動モナク經過シタルカハ九年ノ交西伯利各地ノ過激派擡頭ヲ來タスニ及ビ九年一月中旬以來尼港ニ於テモ過激派軍逐次同地ニ近迫シ同月下旬ニ至リテハ遂ニ「チヌイラフ」要塞ヲ占領スルに至レリ

二月五日我海軍無線電信所及同地附近ノ陸軍守備隊ノ一部ハ過激派軍ノ砲撃ヲ受ケ電信室破壊セラレ通信不能ニ陥リシニ依リ七日同地ヲ撤シテ尼港守備隊主力ニ合シ爾來海軍無線電信係ハ專ラ領事館ノ直接護衛ヲナスコトナレリ

二月二十四日午前九時過激派軍指揮官ヨリ通牒ヲ受領

ス其ノ要旨ニ曰ク「今後徒ラニ犠牲ヲ拂ハンコトヲ避クル
為協商ヲ開始シタキ希望ナリ依テ二月二十四日午後六時
迄ニ日本軍ノ使者ヲ過激派軍本部ニ差遣セラレタレト」（依テ）
備隊長ハ右提議ニ應シ委員ヲ過激派軍ニ差遣シ相互
協議ノ結果二月二十八日午後五時ヲ以テ協定成立ス

該協定事項ハ未タ其ノ正文ヲ發見セサルモ多數避難民シ
調査シ得タル所ニ依レハ其ノ要旨概ネ左ノ如シ

一、日本軍及赤衛軍ヨリ各歩哨ヲ配置シ警戒ニ任シ尼
港ノ安寧秩序ヲ圖ルコト

二、赤衛軍ハ裁判ナクシテ一般市民ニ對シ銃殺ヲ行ハサルコ
ト

三、赤衛軍ハ一般市民及白衛軍ヲ捕縛シ又ハ掠奪ヲ
行ハサルコト

陷ルヘキヲ慮リ自衛上断然十二日午前二時ノ期ニテ敵
ヲ攻撃スルニ決シ直ニ之ヲ我官民ニ傳フルト共ニ左ノ部
署ヲナセリ

一、水上大尉ノ指揮スル第十二中隊（一小隊缺）機関銃二ハ
日本民會ニアリシ自衛團ヲ合シ過激派軍本部ヲ攻
撃ス

二、後藤大尉ノ指揮スル第十一中隊（一小隊缺）機関銃一
ハ支那町方面ヨリ西方ニ向ヒ敵ヲ掃蕩シ一部ヲ以テ軍
用交換所ヲ攻撃ス

三、石川少佐ハ自ラ六十名及機関銃一ヲ率テ豫備隊
トナリ水上隊ニ協力シテ敵本部附近ノ敵ヲ掃蕩ス

四、海軍無線電信隊一部ヲ以テ實業學校ノ敵砲ヲ奪
取シ主力ヲ以テ教會堂附近ノ敵ヲ掃蕩ス

五第十二中隊ノ一小隊及傷病者ハ兵營ノ守備ニ任ス
十二月午前一時三十分諸隊ハ行動ヲ起シ水上隊及石川
隊ハ敵本部及其ノ西方約七十米ノ市民俱樂部ノ敵ヲ
包圍攻撃ス首領「トリヤピーツイン」負傷シ「ニーナ」等
ト共ニ僅ニ身ヲ以テ免レ我戰勢極メテ有利ニ發展セ
シ「カフクンス」ト高會ニ在リシ副統領「ラプタ」ハ我攻撃
ノ衝ニ中ラサリシヲ以テ直ニ其ノ部下ヲ督勵シテ應
戰ニカハルト共ニ各所ニ散在セル過激派軍ヲ来リ合セシ
メ又「パルケザン」第一聯隊長「アムール」モ部下兵力ヲ集
結シテ我攻撃ヲ阻止シ殊ニ其ノ一部ハ我側背ニ迫リ形
勢逐次不利トナル斯クシテ時ノ移ルニ從ヒ敵兵ハ市外ヨ
リ續々増加シ来リ家屋内ヨリ猛烈ナル射撃ヲ加ヘシツ
逐次家ヨリ家ニ移リテ我ニ逼ルニ及ビ我兵奮戰屢々壯

烈勇敢ナル突撃ヲ敢行シタルニ周圍ノ家屋ハ盡ク敵
ノ占領スル所トナリ暴露セル我兵ハ忽ク死傷續出シ午前
二時三十分頃ニ至リ守備隊長石川少佐重傷ヲ負ヒテ戦
死シ横銭副官、石川軍医、窪田通譯並通信員岩
井工兵上等兵等相次テ戦死シ爾後戦況益々不利ニ陥
リ天明ト共ニ愈々苦戦惡闘シ續ケ將校以下其ノ大部ハ
茲ニ壯烈ナル戦死シ遂ク多ク高内主計ハ負傷ニ屈セス兵
卒僅ニ三名シ率牛日没ヲ待テ敵中ニ突破シ午後七時
三十分大隊本部ニ歸還ス
水上隊ハ石川隊ト共ニ力戰奮闘大ニ努メタルニ前述ノ如ク家
屋ニ據レル敵ノ猛射ニ依リ死傷頻發シ遂ニ石川隊ト離
隔セルノミナラス後藤隊トノ連絡ニ努メタルモ敵ノ抵抗益々
甚シク目的ヲ遂行スル能ハス既ニレテ天明トナリ敵ノ勢力

愈ニ加ハルニ及レ我ハ已ニ三分ニノ兵力ヲ失ヒ而モ友軍ノ
情況全ク不明ナリシヲ以テ一家屋ヲ利用シテ之ニ據リ猛
烈ナル敵ノ砲撃及小銃火ヲ浴ヒツツ奮戦健闘ヲ續ケ
シ日没ニ至リシカ此ノ時他方面ノ銃聲全ク熄ミ吾ノ包
圍スル敵ノ銃聲竝爆音ヲ聞クノミ是ニ於テ中隊長水
上大尉ハ兵營ニ歸リテ後圖ヲナサント欲シ十三日拂曉残
兵二十餘名及機関銃一ヲ提ケ市街各所ノ家屋ヨリスル敵
ノ妨害ヲ排除シツ前進中水上大尉以下十數名ノ戦死
者ヲ出スニ至リ河本中尉ハ残兵十數名及機関銃一ヲ
率テ敵ヲ突破シテ兵營ニ歸還ス
後藤大尉ハ支那町方面ヨリ西方ニ向ヒ前進中主力方面
ニ於テ盛ナル銃聲ノ起ルヲ聞キシカ間モナク敵ノ浴道家屋
ヨリ俄然我ニ向ヒ射撃ヲ開始セシヲ以テ直ニ之ニ應戦
セ

レ茲ニ猛烈ナル市街戦ヲ惹起シ敵ヲ突破シテ奮進
シ一部ヲ以テ軍用交換所ヲ占領シ中隊ノ主力ハ依然西
方ニ前進ス然ルニ敵彈雨注シ加フルニ家屋内ヨリ敵ノ
投下スル手榴彈ノ為塚本中尉以下死傷相踵キ漸ク
苦戦ノ状況トナル後藤大尉以下奮戦以テ主力方面ニ策
應スルニ努メタルモ敵ハ其ノ兵力ヲ増加シテ我ヲ包圍スル
ニ至リ天明ト共ニ形勢益々非ニシテ難戦苦闘其ノ極
ニ達ス後藤大尉ハ部下ヲ激勵シ突撃ニ次クニ突撃ヲ
以テシ遂ニ一條ノ血路ヲ開キテ市場棧橋北側附近ニ
達セシモ後藤大尉以下將校特務曹長^張皆斃ル^中裏シ
テ戦フモノヲ併セ僅カニ三十名ニ足ラス^然此ノ時黒龍江
上^中軌砲^射彈連リニ同隊附近ニ飛来シ忽チ十數名ヲ殺傷
スルニ及セ我兵奮進勇敢ナル突撃ヲ試ミタルモ奈何ヤ

前後ヨリ敵ノ猛射ヲ受ケ遺憾ナカラ後藤隊ノ残兵ハ悉
 ヲ黒龍江上ニ壯烈ナル戦死シ遂ケタリ
 海軍無線電信隊ハ一部シ以テ實業學校ニアリシ敵砲門
 ヲ襲撃シ砲門ヲ奪ヒ其ノ樞要部ヲ脱レテ之ヲ持テ
 歸リ主力ハ教會堂附近ノ敵ヲ攻撃セシモ敵ノ抵抗頑
 強ナルノミナラス敵兵漸次増加シテ我ヲ包圍シ猛火ヲ注
 キ死傷續出苦戦ノ情況ニ陥リテヲ以テ退テ領事館
 ノ守備セシカ敵兵ハ忽々同館ヲ包圍シテ猛烈ニ攻撃シ
 来リ石川海軍少佐以下勇戦奮闘シ敵ヲ撃退シ
 又敵兵愈々増加シ天明ト共ニ黒龍江ニ射撃場ヲ設ケ
 俟テ我損害甚ク石川海軍少佐以下多數ノ死傷者ヲ
 生シ形勢頗ル非ナルニ至リ石田領事及其ノ家族竝ニ三宅
 海軍少佐ハ難ニ殉シ
 遂ニ悉ク
 奮然起テ

来ハ射撃ニ來リ大ニ憤慨シテ大ニ奮然
射撃ニ過ミ遂ニ全員擧ニ壯烈ナル戦死ヲ遂ケテ南
水米子名ハ教會堂附近ニ撤退ノ際兵營ニ入り陸軍
守備隊ニ合シ

憲兵隊ハ其ノ宿舎ニ在リテ後藤中隊ノ來リ會スルヤ協力
奮戦大ニ努メタルモ衆寡敵セズ死傷相踵キ後兵營ニ
向ハントスル途中悉ク戦死セルモノ如シ

守備隊本部ニ於テハ兵卒三名ヲ率キテ帰還セル高
内主計以下防戦大ニ努メタルモ全ク敵ノ包圍スル所
トナリ危険刻々切迫スルニ至リレテ以テ重要書類等
ヲ悉ク焼却シ十二日夜中隊兵舎ニ移リ中隊残留者
ト共ニ極力防戦ニ力ム

十三日午前四時三十分頃河本中尉ハ兵卒十數名及機

関銃ヲ率ト又曩ニ軍用交換所ヲ占領セシ後藤隊ノ一部ト共ニ敵ノ軍圍ヲ突破シ帰還セシヲ以テ此ニ中隊兵舎ニ現存スルモノ合計百名（海軍兵卒ト非戦闘員ト及傷病兵ト）在留知人ト三ノ舎、陸軍病院尼港分院ニ在リシ職員及患者約二十餘名ヲ含マス）ヲ算スルニ至レリ

中隊兵營ニ集マリシ残存者一同ハ相協力シテ防戦ニ力メシカ敵ハ兵舎ノ周圍ニ散兵壕ヲ構築シテ我ヲ包圍シ機関銃及小銃ヲ以テ猛射スルノミナラス十三日天明ト共ニ砲撃ヲ開始シ特ニ支那町附近ニアリシ二十冊榴弾砲ヨリスル巨弾ノ為兵舎破壊セラレ危険刻々ニ迫レリ然レトモ残存者一同ハ殊死奮戦シテ毫モ屈スル色ナク十七日早ル五日間晝夜間断ナキ

猛烈ナル敵ノ攻撃ニ對シ全員協力死守シテ敢テ
撓マズ傷病兵亦銃ヲ執テ起テ悲慘淒愴其ノ極ニ
達ス

然ルニ十七日午後五時過激派軍ヨリ俘虜トナレル可
村通譯 三月十五日我軍夜襲ノ當時凍傷ノ為入院シ
在リシモノナルガ此ニ至リ敵ニ拉致セラレタルモノナラン
ヲ派シ哈爾濱白露兩軍代表者ノ電報ヲ示シ極端ニ戰
鬪ヲ中止シ速ニ戰鬪行為ヲ停止スヘキ旨ノ勸告ヲ
提議ス

残存者ハ連日ノ激戰ニ依リ其ノ大部ハ既ニ傷キタルニ
拘ハラズ決死尚最後ノ奮戰ヲ試ミツツアリシモノ今ヤ
旅團長ノ電報ニ依リ之ニ從フノ已ムナキニ至リ翌十八日
早朝萬斛ノ決ヲ吞ンテ戰鬪停止ノ旨ヲ過激派軍
ニ通告セリ之ト共ニ我残存者一同ハ遺憾ナカラ彼等

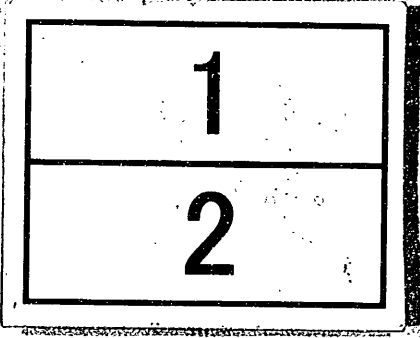
ノ為武器ヲ奪取セラレ午前十時民兵々舎ニ移リシカ十九
日無法ニテ投獄セラル
本事變ニ於テ過激派軍ハ其ノ野獸性ヲ發揮シ支那人
約九百、鮮人約四百ハルヲ殺シ使喉ヲ在留邦人
ハ索メテ之ヲ虐殺シ其ノ財貨ヲ奪ヒ又既ニ投獄シテ
リシ資産及有識階級ノ露人約四百六十餘人ヲ殺シ其
ノ家屋財貨ヲ擧テ悉ク之ヲ掠奪シ殘忍暴虐至ラ
サルナク一面我殘存者ニ對シテハ頗ル粗惡ナル給養シナ
シ且^苛酷ナル勞役ヲ課セルト共ニ各種ノ事實ヲ捏造シ
普傳ヲ行ヒ我殘留者ノ思想惡劣ヲ試ミタルモノノ如
シ然ルニ我救援隊ノ漸次近接スルヲ知ルヤ敵手ニ在リシ
我殘存者全部ヲ五月二十四日夜半ヨリ二十七日ノ間ニ於テ
之ヲ慘殺セルモノ如ク百二十二名ノ同胞ハ我救援隊ニ采

著近キニアルヲ知リツツ無残ニミ悉ク過激派軍ニ毒刃
ニ斃レタリ

要之彼過激派軍ハ入市以來少クモ五千人ヲ虐殺シ暴
戾ノ極ヲ盡シタル後尾港全市ヲ焦土ト化シ我軍ノ上陸ニ
先テ逸早くコアマグン上流方向ニ遁走セリ今ヤ尾港附近
露國住民ハ漸ク其ノ虐政ノ苦ヲ脱シ救ヲ我軍ニ求ム
ルモノ日ニ數百ヲ算スルノ狀況ニアリ

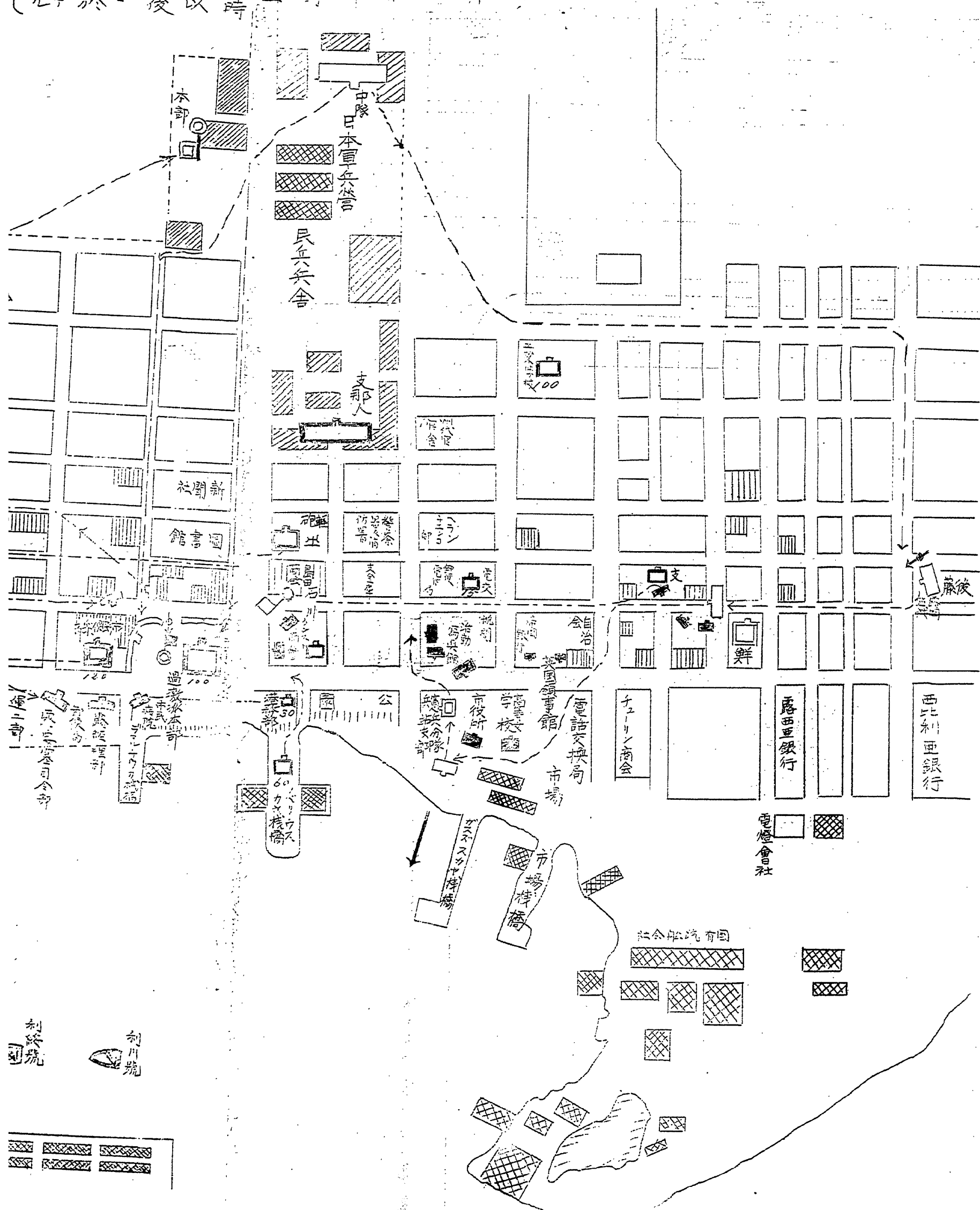
0282

分割撮影ターゲット

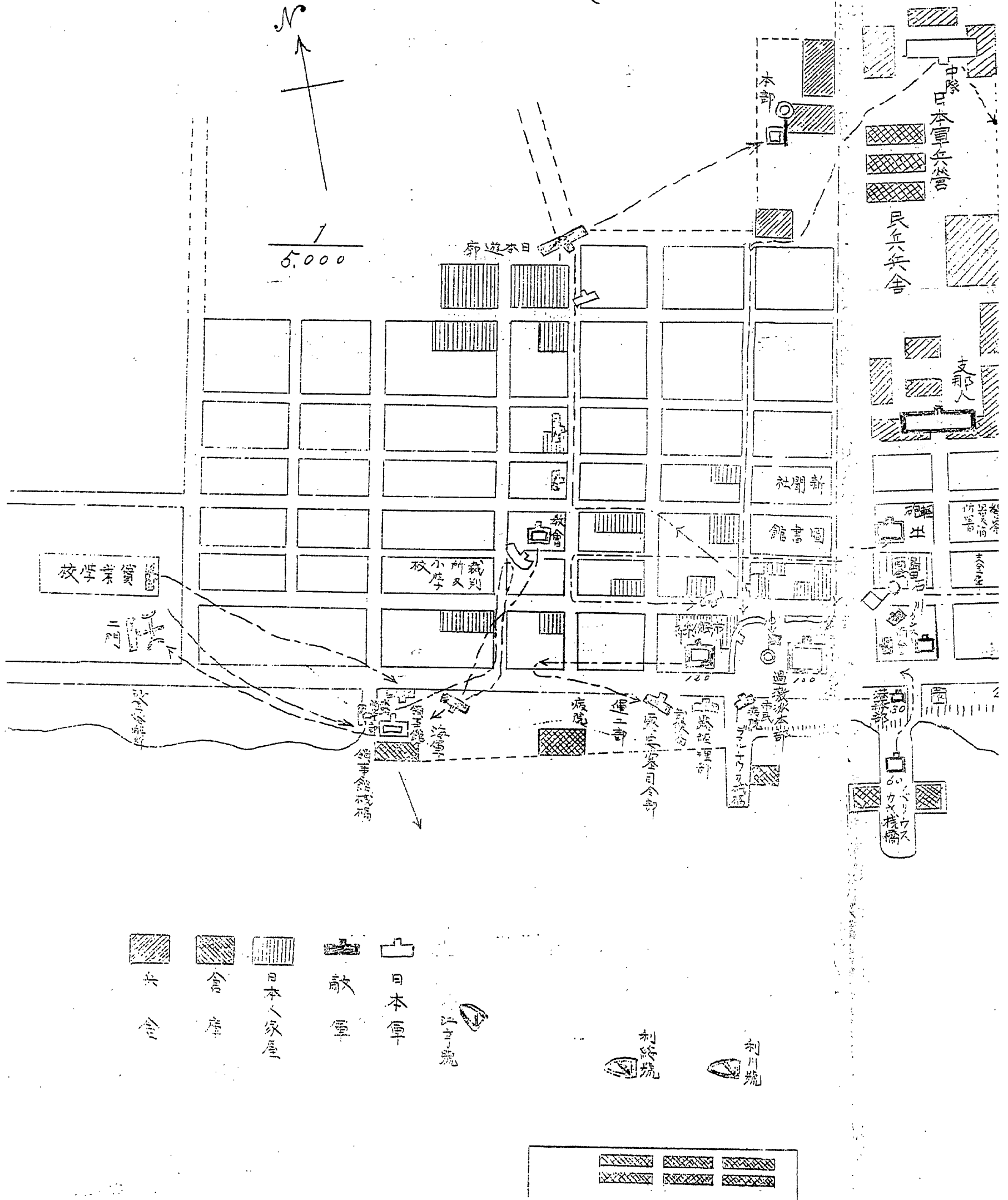
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0283
0284

〕要 闘 戦 襲 夜 隊 備 守 港 尾
(心 於 = 後 以 時 三 前 午 日 二 十 月 三)



備隊夜襲戰要圖 (時以後於此)



又那砲航砲艇一事件

大正九年春民艦事件際令地所在又那砲航一軍
 又那砲艇もこの砲航一軍に属する砲艇として
 軍員も亦軍に参加し和人居る例證も亦及に
 政府七月二十日事情より又那政府協令調を以て
 八月二日(庚辰)に又那側之内容も亦現地に於て九月
 十日より九月十八日迄に彼我両軍の間、一に其間調を以て結
 果九月十八日又那側別紙其の一、判結又承信を以て
 完了せしめ、又事情より又那政府、執法を以て
 又那側之事情より又那側之事情より又那側之事情より
 要束、以て全部承信せしめ、大正九年一月中旬別紙其の一

一わう之ヲ今ニ代セリ

海

軍

明治十三年

0286

尼港事件ニ對スル支支共同調査委員ハ大正九年九月七日ヨリ同年同月拾八日迄共同調査ヲ行ヒタル結果左ノ如ク共同判決ヲナス

一、駐尼港支那副領事張文煥^煥カ支那居留民保護ノ爲赤軍ト交渉セ
ルハ敢テ之ヲ咎メサルモ既ニ馬賊ノ如キモ^モト認メタル赤軍
ニ對シ個人的交際ヲナシタルハ遺憾ナリ

二、赤軍尼港ニ近接シ情況切迫セル際支那砲艦江亭艦長陳世英ハ
白軍トノ間ニ支那艦船ノ周圍一定限界内ニ進入スルモノハ之
ヲ射撃スヘシトノ協定ヲナシ白軍ハ之ヲ新聞ニ公示シ陳艦長
ハ其部下ニ同様命令ヲ發シタリシカ赤軍入市後別ニ該命令ヲ
改ムヘキ手段ヲ講セサリキ然ルニ三月中旬日赤兩軍戰鬪中日
本軍ノ一部三月十二日未明支那砲艦ニ接近シ來レル際艦内ニ
在リシ監視兵ハ直ニ之ニ向テ機關銃射撃ヲ加ヘ天明ト共ニ日

(報文計納)

本兵三名ノ死屍アルヲ知り急遽氷ニ穴ヲ穿チ之ニ投入シ事ノ
隠匿ヲ圖リシモノアリシハ遺憾ナリ

三、支那砲艦江寧^{チン}艦長陳世英カ白軍ニ貸與セル三門ノ火炮中五連
装砲一門ハ赤軍ノ奪取スル所トナリ陳艦長ハ之ヲ取り還スヘ
キ方法手段ヲ講セサリキ然ルニ該砲力後ニ至リ赤軍ニ利用セ
ラレタル形跡アルハ遺憾ナリ

四、三月中旬日赤兩軍戦鬪ノ際支那水兵ノ或者ハ私用ニテ護身ノ
爲銃砲器ヲ携帯シ市ヲ徘徊中誤解ノ爲日本兵ヲ射撃セル形跡
アリ又内一、兩名ハ赤軍砲兵陣地附近ヲ通過セル際赤軍ノ脅
迫スル處トナリ之ニ對シ砲ノ操法ヲ教授シタル形跡アルハ遺
憾ナリ

別紙
其ノエ

海
軍

大正九年十月七日發

内 田 大 臣

在 支

小 幡 公 使

第五七〇號

往電第五三七號ニ關シ日支共同調査ノ結果尼港事件ノ際支那砲艦
監視兵カ日本軍ノ一部ニ對シ機關銃ノ射撃ヲ加ヘ兵三名ヲ死ニ至ラ
シメタルコトハ支那側委員ノ正式ニ肯認スル所トナリ即チ曩ニ帝國
政府カ支那政府ニ對シ指摘シタル支那砲艦日本人射撃ノ事實ハ茲ニ
立證セララルニ至リタル次第ナルヲ以テ帝國政府ハ大體往電令第二

(報文計納)

0289

○三號ノ方針ニ依リ本件ノ解決ヲ圖ルト同時ニ三月中旬日赤兩軍戰
闘ノ際支那兵カ市内徘徊中日本兵ヲ射撃シタル形跡アルノ事實ニ對
シテモ支那政府ヲシテ陳謝セシムルコトトシ度ク尙ホ支那ヨリ「パ
ルチザン」ニ武器ヲ供給シタルノ事實ハ明確ニ立證セラルルニ至ラ
サリシモ（一）支那砲艦江寧艦長ノ白軍ニ貸與シタル三門ノ火炮中
一門カ赤軍ノ利用スル所トナリタル形跡アリ（二）三月中旬日赤兩
軍戰闘中支那水兵ノ或者カ赤軍ニ砲ノ操法ヲ聲援シタル形跡アル等
間接ニ赤軍幫助ノ行爲アリタルト推定シ得ヘキコトハ亦等シク支那
側ニ於テ自ラ肯認スル所ナルヲ以テ是等ノ事實ニ對シテハ支那政府
ヲシテ遺憾ノ意ヲ表セシムルコトトナシ度キニ付貴官ハ支那政府ニ
對シ別電第五七一號ノ趣旨ヲ申入先方ヲシテ速ニ應答セシムル様御
盡力エリタシ尙政府ニ於テハ今回ノ共同調査ニ際シ支那委員ニ於テ
終始公正ノ態度ヲ持シ事件ノ圓滿解決ヲ望ムノ誠意ヲ示シタルヲ諒

トシ且此種ノ不快ナル事件ヲ可成速ニ終結セシメタキ希望ナルヲ以テ別電第五七一號ノ要求ハ極メテ寛容ノ精神ニ基ク我方最少限ノ條件ナル次第ヲ先方ニ説明セラレ度ク又第四頃弔慰ノ方法ニ關シテハ可成弔慰金ヲ支拂ハシムルコトトシ庫ク其金額ハ被害者ノ範圍ヲ特定スルコト不可能ナルニ依リ尼港殉難者約七百名ニ對シ一人當五十圓ノ見當ニテ合計三萬五千圓位ニ交渉セラレ度ク若シ右弔慰金案ニ折合フコト困難ナル場合ニハ支那政府ノ名ニ於テ遺族ニ對シ弔慰狀（全體ニ宛テ一通）ヲ送ラシムルコトニ讓歩スルモ差支ナキ考ナルニ依リ其ノ含ニテ可然處理セラレ度シ尙ホ共同判決文若クハ其要領ハ別電第一頃ノ公文公表ト同時ニ又ハ其前適當ノ時機ニ發表スル様追テ彼我打合ヲ遂クル積ナリ

内田大臣

在支

小幡公使

第五七一號別電

帝國政府ハ~~獨~~ニ尼港ニ於ケル支那砲艦砲擊事件ニ付最モ慎重公明ナル手段ニ依リ其解決ヲ圖ランコトヲ希望シ貴國政府ニ提議スルニ日支共同調査ノ事ヲ以テシタル處貴國ノ快諾ヲ得爾來兩國委員會商現地ニ於テ嚴密調査ヲ遂ケタル結果過日共同判決ノ調印ヲ見ルニ至レリ右判決文ヲ査スルニ~~獨~~ニ帝國政府カ貴國政府ニ對シ指摘シタル事實ハ明カニ立證セラレタルヲ以テ帝國政府ハ日支兩國ノ關係ニ鑑ミ速ニ斯ノ如キ遺憾ナル出來事ノ圓滿ナル解決ニ達センコトヲ欲シ茲

(報文計納)

0292

ニ左ノ條件ヲ提議スル次第ナルニ依リ貴國政府ニ於テモ公正ノ態度ヲ以テ直ニ之ヲ應諾セラルルニ至ランコトヲ希望ス

第一 支那政府ハ帝國政府ニ對シ公文ヲ以テ共同判決第二項及第四項前段ノ出來事ニ對シ陳謝シ又第一項第三項及第四項後段ノ事實ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シ且同時ニ右公文ヲ公表スルコト

第二 支那砲艦江寧^事ノ所屬艦隊司令官ハ尼港守備隊所屬帝國軍司令官ヲ訪問シテ前項同様陳謝シ且遺憾ノ意ヲ表スルコト

第三 支那政府ハ共同判決第二項ノ射撃ニ關係シタル兵員及其監督士官ヲ嚴重處罰シ又當該艦長ハ指揮監督ノ全責任ヲ有スルノミナラス右射撃ノ事實ヲ極力隱蔽セントシタルノ罪跡アルニ^顯ミ重キニ從テ處罰スルコト

第四 支那政府ハ本事件ノ被害者遺族ニ對シ適當ナル弔慰ノ方法ヲ講スルコト

29
其
三

海 軍

尼港支那砲艦事件ノ解決

客年三月尼港事件ノ際同港ニ碇泊中ナリシ支那砲艦江寧^{リョウ}ノ監視兵力
十二日未明自艦ニ接近シ來レル日本軍ノ一部ニ機關銃射撃ヲ加ヘタ
ル事件其ノ他ニ關シ過般來日支兩國政府間ニ交渉中ナリシ處今般本
件ハ左記條件ヲ以テ圓滿ナル解決ヲ告ケタリ

(一) 支那政府ハ本件ニ對シ特ニ日本政府ニ向テ遺憾ノ意ヲ表スルコ
ト

(二) 江寧艦ノ所屬艦隊司令官ハ在浦潮帝國軍司令官ニ對シ陳謝スル
コト

(三) 支那政府ハ當該艦長以下關係者ヲ處罰スルコト

(四) 支那政府ハ被害者ノ遺族ニ對スル弔慰金ノ意味ニテ三萬元ヲ日
本政府ニ交付スルコト

(報文計納)

0294

アガハ近又那、ジャ、船沈事件

大正九年五月二日尾港に對する作戦、為臨時海軍汎濫作
 へ先遣攻撃に中澤攻撃（大型砲艦）より行ふカ型砲艦も
 ぶん、又掃海艦三隻より成り中澤より行ふ航長之ヲ指揮
 する龍江水路清掃又偵察艦隊は、此の龍江に下
 航中、今日午後七時頃尾港上流十余哩ノ地長ニ於テ怪疑
 した小艇ヲ発見する、監視を專用潜水艦に從テ小艇
 彼方監視、此をワリシヲ以テ、ユウリン之ヲ船ヲ沈し、計
 七、八月、九月
 パンタカ、今般ヲ利用セントス、處を少戦上ノ要水、夏士キ之
 ヲ監視セシ、當時情況、別紙より一臨時海軍汎濫作
 戦、船ヲ沈し、此の如し

心室型

心 靈 的 歌

上り時ノ事情ヲ知ラセムニテ早ニ外交部及度銀等ニ
ノ執柄ヲ自己に握復復治策ニ外ナラズニテ事件解決
ノ時期速ニカラムニテ推定スル

別紙 第一 第二 第三 第四

(備考) 往復文書又ハ長文ニ付之ヲ省略ス